

エクストリームシリーズ2010 奥多摩大会

奥多摩大会優勝チームコメント

Teamつくし 鈴木 博子 さん

今回のメンバーは、以前アドベンチャーレーサーとして世界中を飛び回っていた佐藤佳幸さんとアドベンチャーレースをこよなく愛す芝田敏仁さん。佐藤さんは過去バリバリのアスリートでもちろん経験も一番豊富だけど、現在アドベンチャー映像カメラマンとして活躍しており、レースから離れて随分経っていた。しかもレース前日にスイスから帰国というハードスケジュール。芝田さんは唯一バリバリの現役、一番最近のアドベンチャーレースに精通していると思われた。ただ相変わらずレース三昧でGWにもMTBのレースで長距離を走っており、レース次の日も10時間のロゲインレースに出るといったことだった。

私はMTBは思い出せないくらい久しぶり、地図読みは全くやらない・・・ただの冷やかshi!? (笑)

レース最初のゲーム、今回は綱引き。綱引きなんてどれくらいぶりなんでしょう? 「掛け声はどうする?」なんて話をしているうちに順番が回ってきた。

「スタート!」お互いに引っ張るが綱が動かない。長い間静止状態が続いて「もうダメ〜!」なんて力が抜けそうになったとき、相手方が先に力尽きたようで我がチームの勝利。思ったよりしんどかっただけに1回で終わった喜びは大きかった。

さて、ここからが本番のレーススタート。まずはMTB。芝田さんに牽引してもらい、よっちゃんに(佐藤さん)に背中を押してもらい急坂を上る。すごいなあ〜二人の体力は!(もちろん私も頑張りましたよ 笑)

トレッキングスタート地点に到着したのは5着。前の4チームはすぐ前に見えた。トレッキングで4チームを交わしトップ。順調にチェックポイントを通過していった。その間もよっちゃんは撮影を怠ることなく他チームのインタビューなどもしていた。今日は仕事でもないのに、、、さすがプロカメラマン!

トレッキングセクションは結構ハードなアップダウンだったけど、楽しいシングルトラックを十分に堪能し、無難に終了。

次はMTBで移動をしてからカヤック。1人1人順番に漕いだのだけど、これがまた結構疲れた。カヤックもここ何年もやっていなかったので変なところに力が入ってしまっていたのだと思う。距離は短かく、静水だったので何事もなく終了。最後はMTBでスタート地点まで戻り、1着でゴール。

地図は2人にまかせっきりで、その上牽引してもらい、ほんとに二人のおかげだと思う。自分の非力さには少し情けないけど、とっても楽しかった。二人とも力が抜けていて、当たり前のように(ほんとは当たり前じゃないのに・・・)私に力を貸してくれて、かつ楽しませてくれて最高の一日を送ることができた。終わったあと「しんどかったー」なんて言っていたが、レース中は笑顔、和やかな空気が漂いあつという間のレースだったと思う。

最高の天気と奥多摩の大自然、そしてステキな仲間感謝。他のチームメンバーとの出会いや語らいもレース楽しみの一つ。

“ありがとうございました^^”

奥多摩大会 参加チームコメント

ならいだら 宮川 満寿雄 さん

メンバー

宮川満寿雄(マスオ) 吉田慎吾(シンゴ) 戸野塚由香(トノ)

今回奥多摩大会には私マスオとトノは2度目、シンゴに関してはアドベンチャーレース初参加でした。事前情報は共有していたつもりだったのですが、シンゴは当日の朝でも心配いっぱいな様子でした。

軽い渋滞で他のメンバーとの集合時間に遅れた私は、レンタルバイクが必要な2人に先行してMTBを借りておくように電話で伝えると、どんなバイクを選んだら良いかわからないと不安いっぱいな感じ。私は迷わず「軽いヤツだ!」という寝ぼけたキョトンとした顔で、(実際顔が見えたわけではないが、絶対にそんな顔をしていたはず)「えっ、担ぐんですか?」とワントンボ遅れて聞き返してきた。

私は心の中で【99%、担ぐことになるだろうなあ】と思いながらも、「もしものためにね」とごまかしておいた。

参加者が集まってくると、気持ちも盛り上がってワクワクドキドキ。それを反映するかのように空も前日の雨が嘘のように真っ

青で気持ちが良い、絶好のアドベンチャー日和となった。

今回の私たちのチームの目標は完全完走。（それと五体満足の帰還。）

前回は一番楽しみにしていたカヤックにリミットオーバーで残念ながら乗れないことになり、カヤックに乗る他のチームを見ながらゴールした悔しさをバネに、今年こそはカヤックに乗るぞと、写真を一枚。



さてスタートをすると早速のチームチャレンジは、なんと綱引き。勝ち抜けスタートということは、逆をいうと負け残り…。こんなところで体力を使いたくないと必死で頑張り一発で勝ち抜き、MTBへ。

ここからゴールまで7時間以上かけていくわけですが、その全部をお伝えするのは難しいので、印象的な事件をひとつ。

後半のMTBは人が1人通れるくらいの山道で石やら、木の根っこやらが当然のようにある。そんなところを私 → シンゴ → トノの順番で下っていると、シンゴが後ろの変な音に反応。振り向くと、なんとそこにはあるはずのトノの姿がない。細い山道のため、あやまってMTBごとトノは数メートル崖下へ滑落したのです。

しかし私は気付かずどんどん先へ進みます。シンゴの声で気付いた私は「トノが？それとも自転車か？」と状況を聞くと、冷静にシンゴは「両方です」と。

でも私が驚いたのは、落ちたことではなく、トノがMTBを離さずにハンドルを握ったまま落ちていたこと。びっくりでしたよ。私の位置からはヘルメットは見えるがMTBが見えない。崖下を見ても見えないので、もっと下かと思ったら、握ったままなんですもの。なんて根性のあるヤツだと落ちたこと以上に驚きましたよ。

その後は、メンバーでお互いにケツをたたき、たたかれ進みタイムリミットまで残り2分というところで、リミットをクリア。念願のカヤックを楽しみ見事目標の完全完走を達成!! 私自身も初めての完全完走は感無量でした。



様々な状況を仲間と乗り越えていくアドベンチャーレースは他にはないと思いますし、大人が必死になって泥んこになれるのは何より楽しいものです。

最後になりますが、スタッフの皆さん、いつもありがとうございます。またよろしくお願いします。